

事務事業名		樹木の里親制度推進事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり					担当組織	担当部	都市建設部	担当課	都市整備課
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり					担当係	管理係	担当課長名	小野英世	
	施策	3 快適で質の高い住環境の整備					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	4 公園の整備					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	11703	一般	8	4	5	樹木の里親制度推進事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H6年度～ 年度		根拠法令 条例等	市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		一部委託			
						事業分類		その他市民に対する事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
植上町、植野町(台南)、植野町(泉)、上台町の4町会を対象に「医師会通り」の樹木の里親を募集し、平成6年度から樹木に里親の名札を掲示し、樹木の根本の除草や乾燥時の散水等の管理をお願いしている。			・ユリノキ119本、ハナミズキ17本、計136本の街路樹のうち95本、49名の里親を指定。 ・老朽化した名札の取替。							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			取り替えた名札の数	枚	40	40	40	40	40	40
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
医師会通りの樹木。樹木の里親。			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			医師会通りの樹木数	本	136	136	136	136	136	136
			里親の人数	人	49	49	50	51	52	52
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
里親を指定した樹木を増やす。樹木の里親を増やす。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			里親を指定した樹木数	本	95	95	96	97	98	98
			新規の里親数	人	0	1	1	1	1	1
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			市民1人当たりの都市公園面積	m ²	18.27	18.36	18.92	19.53	19.87	19.87

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
投入量	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		72		75		96		96		96
	事業費計(A)	千円		72		75		96		96		96
事業費の内訳	千円	報償物資費	19	報償物資費	18	報償物資費	22	報償物資費	22	報償物資費	22	
		消耗品費	23	消耗品費	24	消耗品費	26	消耗品費	26	消耗品費	26	
		作成委託料	30	作成委託料	33	作成委託料	48	作成委託料	48	作成委託料	48	
		人件費										
人件費	人		1		1		1		1		1	
のべ業務時間	時間		35		35		35		35		35	
人件費計(B)	千円		136		138		138		138		138	
トータルコスト(A)+(B)	千円		208		213		234		234		234	

事務事業名	樹木の里親制度推進事業	担当部	都市建設部	担当課	都市整備課	担当係	管理係
-------	-------------	-----	-------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成4年夏に長期間雨が降らず、公園や街路の樹木が枯死した経緯があり、住民による監視制度や里親制度が必要との観点から、市道1級3号線通称「医師会通り」は、周辺住家があり里親制度として条件が整っているため、平成5年6月に里親表示板の取り付けをした。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	地球温暖化、温室ガス効果の削減、ヒートアイランド、異常気象による災害の発生があり、平成17年2月に京都議定書が発効され温室ガス削減目標が定められた。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成26年6月議会の一般質問において、樹木の里親制度について、現在、医師会通りのみで実施しているが、今後、他の地域で実施する計画はあるのかとの質問があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	里親周知のために取り付けた名札が風雨等により劣化しないよう工夫した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	緑に対する理解と関心を深めてもらい、樹木を管理することは、潤いのある空間の確保に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	地球温暖化やヒートアイランド現象、異常気象・災害が報道されている。街路樹の管理によって、緑に対する理解と関心を深めてもらい、緑の持つ温室効果ガスの削減や大気浄化機能を理解していただき、街に緑や潤いを与えることに公共が関与することは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	沿線住民を対象として、沿道に緑や潤いを増やし、市民に緑に対する理解と関心を深めてもらうもので妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	街路樹の里親を増やし管理を充実させる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費は最小の経費で行っており削減できない。 人件費は必要最低限の人数で行っており削減できない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	街路樹を適正に管理することは、潤いのある住環境の実現に貢献するものなので、受益者は通行者も含まれ、受益者は特定されないため、負担を求める余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	多くの市民・団体等が自発的に街路樹の手入れを行うようになれば本事業は終了となる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 里親が増えるよう事業の周知を行う。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	里親を増やすことは難しい状況であるが、今後アドプト制度が普及すれば課題解決につながる可能性がある。
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	